

令和4年度『第1回芦刈まちづくり勉強会』報告書

令和4年12月11日(日)に開催した「第1回芦刈まちづくり勉強会」の内容をお知らせします。
ご覧いただき、今後のまちづくり勉強会等への参加をよろしくおねがいします。

- 日 時：令和4年12月11日(日) 10:00～11:30
- 場 所：小城市芦刈地域交流センターあしぱる「多目的ホール」
- 講師・ファシリテーター：九州大学大学院 統合新領域学府 客員准教授 加留部貴行さん
- 参 加 者：芦刈町住民の方どなたでも(参加者27名)

次 第

1. 開 会(集落支援員自己紹介)
2. あいさつ
3. 対話①「私の近況」
4. 経過・現状説明
5. 対話②「芦刈の現状に何を感じてますか？」
6. アンケート記入
7. これからのスケジュール・次回開催告知
8. 閉 会



加留部さん対話心得

- ・耳を澄ませて聴く
- ・沈黙を歓迎する
- ・否定も断定もしない
- ・答えは一つと思わない
- ・アイデアをつなげる
- ・心の変容を許す

令和4年12月11日(日) 10:00～11:30、芦刈町に住む皆さんで今後の5年後! 10年後! の未来について語りましょう! と『芦刈まちづくり勉強会』を、開催しました。当日は、芦刈観瀾校の中学生を含め、住民どなたでも参加ということで27名の方々が参加されました。

勉強会は、九州大学大学院の加留部さんによるグループ内での自己紹介でスタートし、グループごと(各4名～5名)に「お元気でしたか?」「最近どうですか?」で少しずつ対話が始まり、場の雰囲気が和やかになりました。

次に、市役所からこれまでの経過・現状を説明し、「話を聞いてどうですか? 芦刈の現状に何を感じてますか?」をテーマにグループごとに語り合いました。模造紙に意見を書き、途中、メンバーチェンジをして再度、語り合いました。最後は、模造紙いっぱい意見が書かれていました。



感 想

- ・芦刈の現状を知ることができた (50歳代)
- ・集まって話せる場所があるという機会が増えていいと感じた (30歳代)
- ・中学生の参加はとても良かった (50歳代)
- ・今回の現状を違う人を入れてもう一度、話したい(色々な人と話をしたい) (40歳代)
- ・まずは、こういった勉強会を定期的にやっていくことが大事だと思う (30歳代)
- ・話足りなかった (70歳代)
- ・芦刈に人が集まってくるにはどうしたらいいか、話し合いたい (10歳代)

対話①「私の近況」

※その場の雰囲気になれながら自己紹介をする

対話②「芦刈の現状に何を感じていますか？」

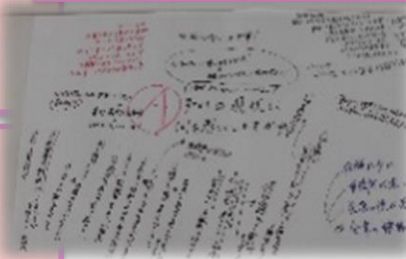
※現状の人口や世帯数を見て話し合う

- ・若者の介入が大事！
- ・行政まかせではいけない！
- ・芦刈に住宅団地があるならいい。アパート居住から住宅を購入された方もいる
- ・店舗が少ない
- ・市役所が遠い
- ・交通の便が悪い
- ・企業を誘致
- ・芦刈のイメージ悪い→住んでみたら人情味があってよかった
- ・元気がない→観光→活かしきれていない
- ・住ノ江のオートキャンプ場の情報発信少ない
- ・人口減少した時のデメリットは→歯止めが利かないのであればそれをメリットにかえられないか！
- ・個人情報の関係で近隣の情報が分からない→付き合い方が難になっている
- ・息子は就職して東京へ(転出)
- ・伝統文化の継承
- ・文化体育館の遊具がない→集まる場所の必要性→地区でつくる
- ・人口が減っていることは何となく感じていた→子供が少ない→集まる場所を増やす
- ・道路の整備は進んでいる
- ・老人クラブ、子どもクラブの組織化

A 班

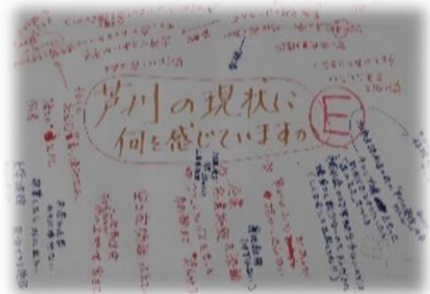
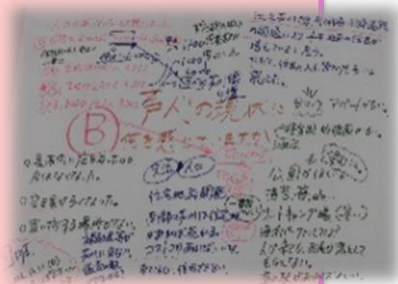
- ・空き家問題増えている
- ・二世帯住宅→子供たちが墓の土地で家を建てる
- ・コミュニティバスをもっととっと細部まで走らせる
- ・企業商業施設誘致
- ・芦刈の魅力はあるが活かしきれていない
- ・補助金の均等配分が少ない、のではないかと議員さんの数少ない
- ・議員さん勉強会にも参加してほしい
- ・キャンプ場も利用できるようにしたら良い、干潟体験とリンクさせる
- ・道の駅つくる
- ・沿岸道路の開通時「芦刈の発信」をアピール
- ・元気にしてほしい、子どもの声聞きたい
- ・若い世代の現状→仕事・交通の便で転入する、近所付き合いが分らない、(距離感)、コミュニティ観が強すぎる、昔は鍵をしていたなかった、家の中に入りすぎ
- ・民泊できる場所
- ・お店、遊ぶ場所が必要
- ・卒業したら出たい
- ・昔は子どもが育つ場所だった
- ・大学・刑務所誘致

E 班



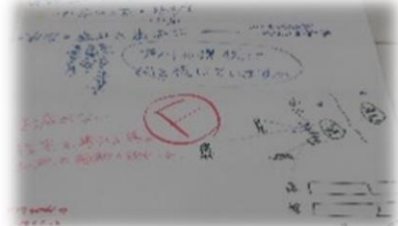
- ・人口が減っていることは感じている→中学校2クラスだったのが1クラスになった(いじめはない)
- ・46歳→3クラス 76歳→5クラス
- ・道路の整備に伴い牛王地区の住民が増えていると思う、入れ替わりも多い
- ・分譲、アパートも増えた
- ・江北は保育園・幼稚園が多い
- ・望むこと公園が欲しい、海苔、イチゴ産業を
- ・海洋パークやオートキャンプ場が(安い)あるが人が来てお金を落とす場所がない、道の駅があれば良い
- ・昔はこわいイメージがあったが違った(人情深い)
- ・住宅地再開発→南部は住宅地があれば売れる
- ・コストあればいいな→実現難しい
- ・一貫校→いじめない
- ・集落内に店があったが今はない
- ・空き家が多い
- ・買い物をする場所がない
- ・補助金が芦刈にはこない→議員さんの数が少ないから？

B 班



- ・道の駅、物産館ほしい
- ・牛王の人口が増えているが店がない
- ・昔は悪いイメージだった
- ・昔は住ノ江・戸崎の人口が多かった
- ・ドローン活用(配達)
- ・子どもが大きくなると外に出ていく
- ・スポーツ大会
- ・土地、地盤改良の補助→市外から来て家を建てる方が少ない
- ・アパート等が増えた
- ・お店がくる噂だけある
- ・高校の進学も市外へ
- ・企業誘致→大学、商業施設
- ・芦刈はとおり道
- ・道が便利になると人も集まる
- ・空き家問題(更地にする)
- ・子育て環境
- ・今あるもの資源を活用しては?農村公園など
- ・公共交通が不便→車に乗れなくなったときどうする
- ・赤ちゃん、子どもの声が聞こえるように

C 班



- ・芦刈のもっといいところを発進、アピールしたらいいと思う
- ・お店がない
- ・住宅を建てるための土地と補助があれば
- ・地盤が緩いので補助が欲しい
- ・2世帯3世帯の家族が少ない
- ・交通不便
- ・大社会が近くに少ない
- ・悪い意味で生活が社会的になっている
- ・芦刈のイメージ悪い

F 班

- ・イメージ悪い→今は良くなっていると思う
- ・田舎→魅力がない
- ・同居→離婚が多い
- ・子どもの声→若い人に元気に過ごしてもらいたい
- ・市報→芦刈は載らない
- ・交通手段→バスがない→車が無いと難しい
- ・市街の地区ではコミュニティバスの仕組みがうまくいっている

D 班



この報告書は市のHPからもご覧になれます



■問合せ先:小城市企画政策課 地域づくり係 土井【集落支援員】
TEL:0952-37-6115 携帯:080-2379-8647(月～木)